

## 神のタイミング

J.Clay Mission Network 永井敏夫

神はベストのタイミングで事を成される。

6月 JEA 総会会場に大塩英人さんがいた。ブースのテーブルに積み重ねられたベトナム語の聖書と三浦綾子さんの書籍のベトナム語訳を、総会の代議員方に紹介している。JEA 総会の場でベトナム語の聖書の紹介がなされるのは画期的なことだ。大塩さんがメールでやりとりした教会を含め、現在 115 を超える教会に聖書と本が置かれている。これは小さな数字だが、神の言葉の持つ力を小さくするものではない。

8月11日、都内荒川区の東京日暮里国際教会でベトナム語礼拝がスタートした。この教会は、都区内の華人を主な対象に礼拝をしているが、ひとりの姉妹はベトナム出身だ。「ベトナム語で礼拝をささげたい。」という姉妹の思いを教会として受け取り、祈りを積んできた。

アメリカから日本の教会に遣わされているトラン・ニーという宣教師がいる。ベトナム生まれでアメリカに行き神学校で学んだ後、日本に派遣されている。トラン先生のベトナム語礼拝をスタートとしたい聞いた長谷川与志充先生と私は、早速トラン先生に声をかけ、東京日暮里国際教会の朴樹民先生を紹介するに至った。ベトナム生まれの一人の姉妹の存在と願いを朴先生らが祈りで受け止め、トラン先生との出会いの中でこうして小さなベトナム語礼拝がスタートした。このようにして始まった礼拝は現在も第二日曜日の夕方から継続している。

ベトナムではカトリックが8%、プロテスタントが2%という数字がある。この数字から日本に3万人以上のカトリック信徒、7500人を超えるプロテスタントがいるという値を引き出すことも可能だろう。都内でスタートしたベトナム語の礼拝は「大河の一滴」だ。国内のベトナム人数37万人という数字と比べても限りなく小さい。けれども母語で聖書を読み、神の言葉に養われるキリスト者たちの祈りには生きた力がある。小さな礼拝の中でなされる祈りは、日本のあらゆる地域に届き、そして母国ベトナムにも届いていくと私は信じている。



## ベトナム語版 三浦綾子書籍配布

三浦綾子読書会顧問（前代表） 長谷川与志充

三浦綾子書誌(黒古一夫監修、岡野裕行著)によると、三浦綾子さんの書籍は韓国語(26作品)、中国語(23作品)、英語(6作品)など15言語に翻訳されています。

その本の中ではベトナム語に翻訳された作品としては「氷点」だけが紹介されていますが、その他にはVBTJで配布している「光あるうちに」と「旧約聖書入門」が翻訳されています。

「旧約聖書入門」は読んで字のごとく旧約聖書をわかりやすく解説した本ですが、「光あるうちに」は副題が「道ありき／信仰入門編」とあるようにまさに信仰入門書と呼べる本です。そういうわけで、これらを未信者のベトナム人に配布することは即伝道になるわけです。

「あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。」(伝道者の書11:1)

この御言葉は伝道のための励ましとしてよく引用されます。私達が行うベトナム語版の三浦綾子書籍配布もパンを水の上に投げるようなものかもしれませんが、この御言葉が約束しているようにずっと後の日になって(天国でもかもしれませんが)救われたベトナム人を見いだすことができることを願いつつ行い続けて行きたいと思います。この働きの祝福のため覚えてお祈りいただけたら幸いです。